

## 研究テーマ

地域包括ケア病棟における自宅退院予測因子の検討  
～ロジスティック回帰分析およびROC解析を用いて～

## 病 院 名

医療法人社団健育会 石川島記念病院

## 演 者

かわたけいし  
○河田桂志(理学療法士)

## 概 要

### 【研究背景】

当院は令和6年10月より回復期病棟から地域包括ケア病棟へ機能転換となった。地域包括ケア病棟では在宅復帰支援が重要な役割を担うが、自宅退院に関連する因子に関する報告は少なく、退院先を予測する指標は十分に確立されていない。先行研究ではFIMや環境因子が在宅復帰に関与するとの報告があるものの、地域包括ケア病棟に限定した検討は限られている。

### 【研究目的】

当院地域包括ケア病棟退院患者を対象に、自宅退院に関連する因子を明らかにし、在宅復帰支援に有用な指標を検討することを目的とした。

### 【研究方法】

倫理委員会の承認を得て実施した。対象は2025年4月から9月までに当院地域包括ケア病棟を退院した患者のうち、除外基準を適用した59症例とした。診療録より年齢、性別、同居の有無、入院日数、平均供給単位数、補助具の有無、血清アルブミン値、FIM移動およびトイレ、FAC、TUG、退院先を後方視的に取得した。自宅退院群と施設退院群の二群間比較を行い、FACおよびTUGについて単変量ROC解析を実施した。さらに自宅退院を目的変数とし、FIM移動、FIMトイレ、FAC、TUGを説明変数としたロジスティック回帰分析およびROC解析を行った。有意水準は5%未満とし、統計解析には R(version 4.5.2)を用いた。

### 【結果】

単変量解析ではFIM移動、FIMトイレ、FAC、TUGはいずれも自宅退院群で有意に良好な値を示した(すべて $p < 0.05$ )。単変量ROC解析ではFACのAUCは0.78、最適カットオフ値は4、感度0.76、特異度0.70であった。TUGのAUCは0.76、最適カットオフ値は17.5秒、感度0.55、特異度0.90であった。多変量モデル(FIM移動/FIMトイレ/FAC/TUG)のROC解析ではAUCは0.81を示し、複数指標を組み合わせることで判別能の向上が認められた。

### 【考察】

移動能力および歩行能力は自宅退院と関連しており、FACおよびTUGはいずれも中等度の判別能を示した。多変量解析では独立因子は抽出されなかったが、症例数が少数であったことや変数間相関の影響が考えられる。複数の移動能力指標を組み合わせて評価することは、単一指標による評価と比較して、自宅退院が可能か判断する上で有用であると考えられる。

### 【結論】

FACおよびTUGは地域包括ケア病棟における自宅退院予測に有用な指標となり得る可能性が示唆された。入院早期からこれらを用いた評価を行うことは、在宅復帰支援の質の向上に寄与する可能性がある。

### 【引用参考文献】

- 1) 保坂公大, 大田尾浩, 菱川幹太 ほか. 理学療法科学. 2024 ; 39(1) : 43-48.
- 2) Çorbacıoğlu ŞK, Aksel G. Turk J Emerg Med. 2023 ; 23(4) : 195-198.